

生物生産技術学科

1. 教育研究上の目的

本学科は、動物と植物の生産を有機的に結合し、地球環境の保全にも配慮した生物生産体系の確立を目指して、講義と実験・実習・演習を連動させた特色あるプログラムによる実学教育を行うことにより、実践的な専門知識と教養を兼ね備えた専門職社会人として社会に貢献できる人材を養成する。

2. 教育目標

生物生産技術学科は、その人材養成目的を踏まえ、次のような者の養成を教育目標とする。

- (1) 作物・園芸生産、動物生産（畜産を含む）の遺伝育種学、生産学を併せて基本を理解できる者
- (2) 実験・実習時間を十分にとって生物生産に対する実践力、応用力を身につけた者
- (3) 卒業論文を全員に課し、問題解決力、表現力、コミュニケーション力を身につけた者

3. ディプロマ・ポリシー

本学科は、動植物の生産学、管理学、遺伝学、育種・繁殖学などの基本を理解し、生物生産に対する実践力と応用力を身につけ、卒業後直ちに社会貢献できる人材を輩出するため、以下の能力を備えた学生に学位を授与します。

- (1) 生物生産に関する基礎的な知識、教養を基本にし、環境への影響を理解している。
- (2) 実験や実習を通じて、実践力を備えた専門的手法や応用力を修得している。
- (3) 実験や実習を通じて、事象の結果を自ら解析し、論理的に考察できる能力を修得している。
- (4) 実験や実習で得られた結果や考察をもとにして、自分の考えを表現し、他人に伝達する能力を修得している。

4. カリキュラム・ポリシー

生物生産技術学科は、講義と実験、実習を連動させた特色あるプログラムによる実学教育を根幹として、ディプロマ・ポリシー掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。

- (1) 幅広い知識と教養を身につけるために、専門科目の導入的な内容を有する科目を学部共通科目として配当する。
- (2) 専門分野の内容をより深く理解するため、専門知識だけでなく問題解決力を身につけるた

めの専門科目を配当する。

- (3) 実践的な専門知識を修得するための実験、実習科目と、専門知識を深めるとともにそれぞれの現場で専門技術を実践し、将来設計の手助けとなる「生物産業インターンシップ」を配当する。
- (4) 自らの調査や実験の結果を解析することによって、問題解決力、表現力、コミュニケーション力を高めるために「卒業論文」を配当する。

5. アドミッション・ポリシー

生物生産技術学科では、生物生産についての基礎知識や遺伝子レベルから生産現場レベルにいたるまでの基礎知識を修得し、環境にも配慮した実践的な生産技術を理解できる人材の養成を目指します。そのため、本学科では次のような学生を求めています。

- (1) 農業に関心があり、農業や畜産業、さらには生物産業または関連産業の経営者、指導者、技術者になろうとする意欲がある。
- (2) 動植物に興味と関心があり、作物・園芸・動物の特質、生産技術、生命現象等に興味と関心がある。